

3〜5歳児に英語遊びを

あおば保育園で新たな取り組み

秦野市認可保育所「あ長・尾尻(3の10)」が
 伊藤園園 6月から、市内の保



歌いながら身振りを交え「ハッピー」などの英語を覚える子どもたち

園・子ども園では初めて
 保育の中に「幼児英語遊
 び」を取り入れた。3歳
 から5歳児までを対象に
 毎月2回実施する予定
 で、初回のお試しリス
 ンを経て、6月29日の2
 講師が子どもたちが話す
 回目から本格的なタター
 上を切った。
 同園では「幼児期の終
 わりまでに育てほしい
 10の姿」として自立心や
 思考力などの目標を掲げ
 ている。今年度からここ
 に「+1」として、グ
 ロバルな人材を育てる
 ため「英語に親しむ」を
 追加し、英語遊びを取り
 入れた。伊藤園長は「小
 学校3年生からの英語教
 育が始まっている中、小

学校での教育の連携を考
 える上でも、幼児期から
 英語に親しむことが重要
 だと思っています」と語
 り、歌を歌いながら踊ったり
 して楽しんだ。なかには
 たり保護者の理解も得ら
 たり保護者から英語に接して
 れ、ベネッセの英語教室
 「ピタタピタ」の講師
 を招いて始めたという。
 「ピタタピタ」の講師が話
 すのは全て英語。日本人
 講師が子どもたちが話す
 言葉を反応を確認しなが
 ら、ジェスチャーを交え
 て何度も同じ単語を繰り返
 す。返復学習でリス
 ンを進めていった。
 最初は3歳児4人の前
 で講師が「ハロー」や
 「サンクス」など、歌を
 交えて披露。子どもたち
 は、初め不思議そうな顔で
 見ていたが、最後には一
 緒に身体を動かして楽し
 んでいた。3歳児のあと
 は、4・5歳児を対象に
 リッスン。12人が参加
 し、今度は講師の言葉を
 繰り返して発音したり、
 歌を歌いながら踊ったり
 して楽しんだ。なかには
 外国籍の親を持つ子ども
 や普段から英語に接して
 いる子もあり、講師が絵
 名を見せながら「キヤッ
 ト」と言ったり「ネコ」
 と声を出して、一緒に
 いた友達に教える場面
 も。授業後は、保育士の
 先生による内容の復習な
 ども行われた。
 今後は、リスン時間
 以外にも、教材を使ったり
 歌を歌ったり普段から英
 語を取り入れていく予定
 で、伊藤園長は「自分で
 考える力を養えれば」と
 話した。